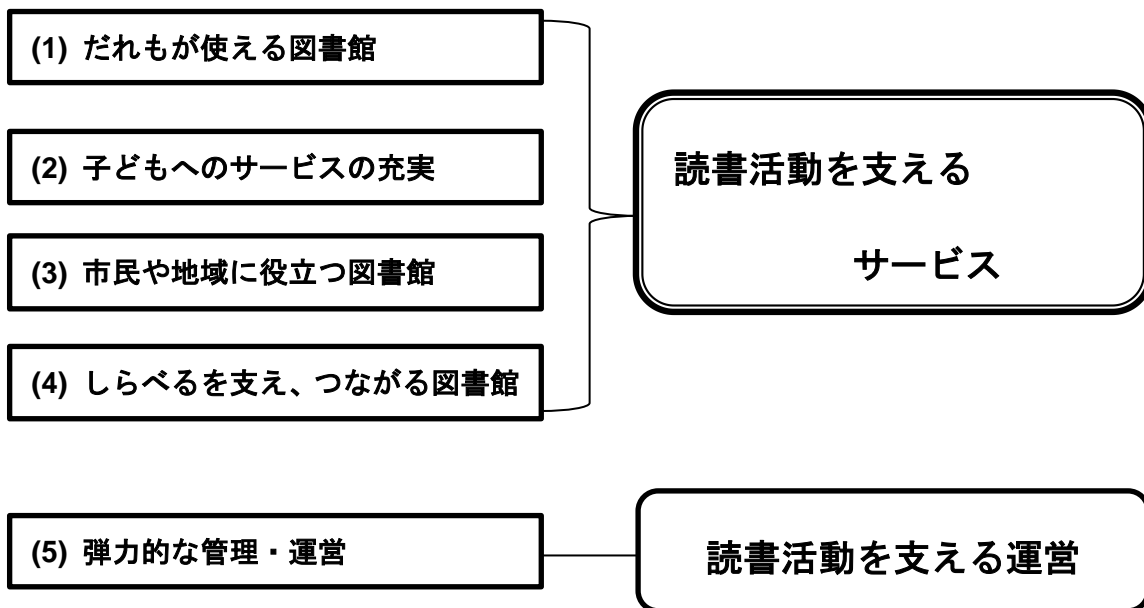


Ⅲ 取り組み

第1 取り組みの体系

「Ⅱ 課題」の最後に整理した方向性に沿って、取り組みを体系的に整理したものが、次のページの図です。この体系は、市民のアンケート回答を反映させ、平成23年に決定した「多摩市立図書館の基本方針・運営方針」の中の五つの運営方針の柱を基にしたものです。

「(1) だれもが使える図書館」、「(2) 子どもへのサービスの充実」、「(3) 市民や地域に役立つ図書館」、「(4) しらべるを支援、つながる図書館」の4つを「第2 読書活動振興を支えるサービス」、「(5) 弾力的な管理・運営」を「第3 読書活動を支える運営」として、これらの取り組みについて、現状を踏まえながら、具体的な取り組みや時期、評価の指標等について掲げます。「第2 読書活動振興を支えるサービス」は読書活動と関わりの深いものであるため、重点項目として取り組みます。



目標 市民の「知る」を支援し、自ら考え、共に課題を解決できる、心豊かな地域を育みます



| | | | | | |
|-----------------------------|------------------------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------|----------------------|
| (1) だれもが使える図書館 | | (3) 市民や地域に役立つ図書館 | | 読書活動振興を 支えるサービス | |
| 取り組み 1 より利用しやすくするための配慮 | 取り組み 2 若年世代の図書館利用の促進 | 取り組み 3 多文化サービスの充実 | | | |
| (2) 子どもへのサービスの充実 | | (4) しらべるを支援、つながる図書館 | | | |
| 取り組み 4 「多摩市子どもの読書活動推進計画」の推進 | 取り組み 5 読書活動に取り組む団体の支援 | 取り組み 6 読書活動振興のためのイベントの開催 | 取り組み 7 読書活動に関心を高めるための事業の実施 | | |
| | | 取り組み 8 地域資料の活用による地域文化の継承 | | | |
| | | 取り組み 9 地域課題解決の支援 | | 読書活動を 支える運営 | |
| | | 取り組み 10 デジタル資料の提供 | | | |
| (5) 弾力的な管理・運営 | | | | | |
| 取り組み 11 本館の機能強化 | 取り組み 12 図書館コンピュータシステムの見直しによるサービス向上 | 取り組み 13 職員体制の見直し | 取り組み 14 ボランティア活動の促進 | | 取り組み 15 事業計画の策定と点検評価 |
| | | 取り組み 16 ICT の活用 | | 取り組み 17 蔵書の適正管理 | |

第2 読書活動を支えるサービス

基本目標(1) だれもが使える図書館

【多摩市立図書館 運営方針1 だれもが使える図書館】

本館を中心にして分館及び分室を運営することにより、身近なところで気軽に利用できる図書館を目指します。また、だれもが図書館を利用できるよう、高齢者や障がい者、多様な文化を持つ人々へのサービスに努めます。

【現在実施している主なサービス】

障がい者サービス

- ・対面朗読サービス⁶の実施
- ・DAISY（デイジー）図書⁷・雑誌及び点字図書の作成と提供
- ・国立国会図書館視覚障害者等用データベースへの提供
- ・てんじ付資料（点字絵本）による、点字の普及
- ・視聴覚等障がい者用情報機器の設置
- ・宅配サービス⁸の実施
- ・「ふじゆうってなに」コーナー設置（永山）による、児童への「障がい」についての啓発
- ・音訳者研修会の実施

高齢者サービス

- ・大活字資料⁹の提供
- ・本館にシニアコーナーを設置

多文化サービス

- ・外国語資料の提供
- ・外国語のおはなし会の実施
- ・外国語利用案内の作成

【課題】

- ・乳幼児を連れた保護者への対応、図書館の利用が少ない10代後半から20代へのPR、多文化に対応した資料の提供などが、利用者へのサービスの中では不十分とされています。
- ・未利用者への働きかけや10代後半から20代の利用促進が不足しています。

⁶ 対面朗読サービス：視覚障害の方を対象に、利用者が希望する図書館資料を音訳者が対面式で音訳するサービスです。

⁷ DAISY（デイジー）図書：カセットの代わりにCD-ROMなどにデジタル録音した資料で、読みたい箇所が容易に探せることが大きな特徴です。

⁸ 宅配サービス：図書館に来館することが困難な利用者が希望する図書等を宅配サービスボランティアの方が、自宅へ届け、回収するサービスです。

⁹ 大活字資料：通常の活字の大きさでは読みにくい人に向けて、原本の内容はそのままに文字の大きさや行間等に考慮して作られている図書のことです。

【取り組み内容】

取り組み1 より利用しやすくするための配慮

| 現状 | 具体的な取り組み |
|---------------------------|---|
| 乳幼児を連れて保護者のための、授乳室設置などの配慮 | ・声を出しやすい乳幼児を連れて保護者の利用を配慮し、書架の配置を工夫する等実施します。 |
| 現状 | 具体的な取り組み |
| 図書館のホームページでの情報掲載 | ・未利用者のニーズを把握します。 ・未利用者を視野に入れた、講演会、講座等を開催します。 |
| 効果 | 乳幼児とその保護者が利用しやすくなることで、より多くの本と出会うことができるようになります。未利用者への積極的な働きかけで図書館の利用につながります。 |

取り組み2 若年代の図書館利用の促進

| 現状 | 具体的な取り組み |
|-------------------|--|
| 10代後半から20代の利用が少ない | ・ニーズの把握に努めます。 ・中高生（ティーンズ ¹⁰ ）などが利用できる声を出して利用できる学習スペースなどの工夫 ・図書館ホームページの充実をはかり、サービスや資料紹介など、図書館からの情報発信を積極的に行います。 ・SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス） ¹¹ の活用を検討します。 |
| 効果 | 来館しなくても図書館の情報を得ることができ、図書館が身近な存在であると感じてもらうことで、来館や読書の機会が生まれます。 |

¹⁰ ティーンズ：おおむね13歳から18歳までの子ども。多摩市子どもの読書活動推進計画では、多様な生き方、考え方にふれながら自己を確立していく時期としています。

¹¹ SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）：インターネット上の交流を通して人と人とのつながりを促進する、社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのことで、代表的なサービスとしてFacebook（フェイスブック）やTwitter（ツイッター）があります。

取り組み3 多文化サービスの充実

| 現状 | 具体的な取り組み |
|---|--|
| 外国語資料の提供や外国語の利用案内を作成している | <ul style="list-style-type: none"> ・市内に定住する外国籍の方に向けて外国語資料の収集を強化します。 ・図書館資料の貸出や関係機関のパンフレット配布により情報提供を行います。 |
| 効果 | |
| 日本語を読むのが難しい方にも図書館で情報を得ることができるようにし、生活を支援します。 | |

【実施時期】

| 取り組み | 計画前期（平成 28～30 年度） | 計画後期（平成 31～32 年度） |
|-------------------------|-----------------------|-------------------|
| 1 乳幼児を連れた保護者への配慮 | 書架配置の検討 | 実施 |
| 2 若年世代の図書館利用の促進 | ニーズの調査など 情報発信方法の検討 | 実施 |
| 3 多文化サービスの充実 | ニーズの調査など | 実施 |

【評価指標】

| 評価指標 | 平成 26 年度実績 | 平成 32 年度末の目標 |
|-------------------------------------|------------------------------|--------------|
| 0～5 才の利用率 (年度延べ貸出者数を年齢別人口で割った数値) | 0.79 | 1.0 以上 |
| 10 代後半と 20 代の利用率 (同上) | 10 代後半 : 1.72 20 代 : 1.75 | 2.0 以上 |
| 外国語資料所蔵冊数 | 4,423 冊 | 8,000 冊 |

基本目標(2) 子どもへのサービスの充実

【多摩市立図書館 運営方針2 子ども読書環境の整備】

一人ひとりの子どもが、感性や人間性を育み、大きく変化する社会情勢にも対応できるように、生きる力を支援する図書館を目指します。また、子どもたちが読書に関心を持ち、いつでも読みたいときに興味ある本に出会えるよう、読書環境の整備に努めます。

【現在実施している主なサービス】

子どもへのサービス

- ・ 第二次多摩市子どもの読書活動推進計画の実施
- ・ 図書の情報提供
- ・ 市立図書館・学校図書館のPR、利用者指導
- ・ おはなし会の実施
- ・ 子ども読書まつり「ほんともフェスタ」¹²をはじめとしたイベントの実施
- ・ 絵本かたりかけ事業の実施
- ・ 学校図書館の調べ学習・読書などの資料の「一時移管」
- ・ 廃棄図書の配布会の実施
- ・ 市内小学校2年生を対象とした図書館訪問の実施
- ・ 中学校職場体験の受入
- ・ 読み聞かせボランティア育成のための講座の実施
- ・ 市民ボランティアとの協働（おはなし会、文庫展¹³等）

【課題】

- ・ 「第二次多摩市子どもの読書活動推進計画」では課題として、私立保育園・幼稚園への働きかけ、配慮が必要な子どもへの支援、10代の子どもの向けサービスを挙げています。

¹² 子ども読書まつり「ほんともフェスタ」:「子どもと本を結びつける日常の活動を多くの人に知ってもらおう」ことを目的として、おはなし会のPR強化、特別おはなし会及び講座の開催、市内小中学校の成果物展示等を実施しています

¹³ 文庫展:多摩市文庫連絡協議会が主催で、子どもの読書環境を整備し、絵本の原画のもつ芸術性を間近で鑑賞できる機会を提供し、作者が絵本にこめた思いを知ることによって創造力、思考力、社会性を高め、子どもに本のすばらしさを伝えることを目的に開催されています

【取り組み内容】

取り組み4 多摩市子どもの読書活動推進計画の推進

| 現状 | 具体的な取り組み |
|--|-------------------------------|
| 平成 23 年度に「第二次多摩市子どもの読書活動推進計画」を策定した 計画期間は平成 24～28 年度 | ・ 第二次計画の推進と、第三次計画の検討、策定を行います。 |
| 効果 | |
| 多摩市のすべての子どもが、あらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動ができるようにし、読書の喜びを感じ、豊かな心を育み、未来への可能性を広げます。 | |

【実施時期】

| 取り組み | 計画前期（平成 28～30 年度） | 計画後期（平成 31～32 年度） |
|-----------------------------|-------------------------|-------------------|
| 4 多摩市子どもの読書活動推進計画の推進 | 第二次計画の推進 第三次計画の検討、策定 | 第三次計画の推進 |

【評価指標】

※評価指標については、「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」の策定時に検討し設定します。

基本目標(3) 市民や地域に役立つ図書館

【多摩市立図書館 運営方針3 市民や地域に役立つ図書館】

暮らしや地域の課題解決、豊かな読書を支える情報拠点として、多様な資料や情報を収集・提供し、市民や地域に役立つ図書館を目指します。また、多摩市と多摩市に
関係する地域資料の活用を通じて、地域文化の継承と新たな創造を支えます。

【現在実施している主なサービス】

豊かな読書を支える情報拠点

- ・各館で企画展示の実施
- ・読書関連団体の活動の場として、本館講座室・活動室や関戸図書館活動室を提供
- ・市民参加による読書週間企画「TAMAICHI」¹⁴を実施（平成25、26年度）
- ・事業報告「多摩市の図書館」の発行
- ・図書館報「やまばと通信」の発行
- ・図書館ホームページによる情報提供
- ・利用者懇談会の実施（平成25、26年度）
- ・団体貸出サービス¹⁵の実施

地域資料

- ・地域・行政資料の収集・提供
- ・「たま市民文庫」を設置、多摩市民や多摩市ゆかりの人の著作を収集、紹介
- ・多摩市に関する新聞記事の収集
- ・本館に「ニュータウン資料コーナー」や「へなそうるのへや」¹⁶を設置
- ・文化財行政と連携した本館の展示

【課題】

- ・企画展示等により情報提供をしてきましたが、地域の課題に対応したサービスに、より積極的に取り組む必要があります。
- ・これまでの貸出やリクエスト中心のサービスから、地域の課題解決や学習機会の提供などができるように、方向を修正していきます。
- ・課題解決のための情報提供などと絡めた講座や催しの開催が求められています。
- ・地域資料はニュータウン資料をはじめ積極的に収集していますが、今後は収集した資料の保存や提供方法を、電子化も考慮しつつ検討する必要があります。

¹⁴ TAMAICHI：読書週間（10月27日から11月9日）の企画のひとつとして、読書のきっかけとなるよう市民参加により「私が薦める本」を投票してもらい、結果発表を冊子にまとめ配布しました。

¹⁵ 団体貸出サービス：子どもの読書推進活動を行う市民グループや、児童館、学童クラブ、保育園などの子どもの施設、コミュニティセンターなどの地域施設を対象に、長期間まとまった冊数を貸し出すサービスです。

¹⁶ へなそうるのへや：多摩市に暮らしした子どもの本の作家渡辺茂男さんの著書等を紹介するコーナーです。

【取り組み内容】

取り組み5 読書活動に取り組む団体の支援

| 現状 | 具体的な取り組み |
|--|---|
| 平成26年度は85団体に15,506冊を貸出（市内小・中学校を除く） | <ul style="list-style-type: none"> ・団体貸出サービスを通じて、図書館以外でも資料を提供できる場所をつくります。 ・除籍資料や寄贈で受入しない資料を「リサイクル資料」として団体へ提供します。 ・団体への資料の提供がよりスムーズにできるように方法を検討します。 |
| 効果 | |
| <p>図書館に来館しなくても本を読める場所をつくることで、より多くの方が読書ができるようにします。</p> <p>それぞれの団体の活動に合わせた資料を提供することで、課題解決を支援します。</p> | |

取り組み6 読書活動振興のためのイベントの開催

| 現状 | 具体的な取り組み |
|---|--|
| 平成27年度に「ビブリオバトル」 ¹⁷ を本館と唐木田図書館で実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ビブリオバトル」や「一箱古本市」¹⁸などの本を介した市民参加型の交流イベントを開催します。 |
| 効果 | |
| <p>新たな本との出会いの場を提供することで、市民の生活の充実や課題解決のきっかけをつくります。</p> <p>図書を通じて他者と交流することで、地域住民のつながりが生まれます。</p> | |

取り組み7 読書活動に関心を高めるための事業の実施

| 現状 | 具体的な取り組み |
|--|--|
| 各館で企画展示を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題に合わせた企画展示を実施します。 ・企画展示とともに、テーマに合わせた情報を掲載した配布資料を作成し、図書館ホームページ上でも閲覧できるようにします。 |
| 平成21年度に市民企画展示を実施 平成25、26年度に「TAMAICHI」を実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民企画による資料の企画展示を実施します。 ・市民による資料紹介のリストを作成・配布するとともに、図書館ホームページ上でも閲覧できるようにします。 |
| 効果 | |
| <p>展示されている図書館の資料を読むことや、市民自らが企画展示を行い情報提供をすることで、読書への興味関心を高めるとともに課題解決を促します。</p> | |

¹⁷ ビブリオバトル：5分間で参加者が面白いと思った本を紹介して、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準として投票を行い「チャンプ本」を決定するコミュニケーションゲームです。「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーに日本全国に広がっています。

¹⁸ 一箱古本市：地域のさまざまなお店の軒先等を使って、「店主さん（出店者）」が段ボール箱ひとつ分の古本を販売するもので、現在全国各地で開催されています。

取り組み8 地域資料の活用による地域文化の継承

| 現状 | 具体的な取り組み |
|---|---|
| 本館に「ニュータウン資料コーナー」や「へなそうるのへや」を設置 | <ul style="list-style-type: none"> ・本館の移転整備の際に、地域資料コーナーを拡大し設置します。 ・行政資料、郷土資料の収集・保存の強化に努めます。 |
| 未実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料の保存や、図書館ホームページ上からの閲覧のため、地域資料のデジタル化を検討します。 |
| 効果 | |
| 地域の情報を得やすくすることで、より多くの市民が地域に関心を持ち、地域の文化が後世に継承される環境を整えます。 | |

【実施時期】

| 取り組み | 計画前期（平成 28～30 年度） | 計画後期（平成 31～32 年度） |
|-----------------------|-------------------|-------------------|
| 5 読書活動に取り組む団体の支援 | 継続実施 | 継続実施 |
| 6 読書活動振興のためのイベントの開催 | 実施 | 実施 |
| 7 読書活動に関心を高めるための事業の実施 | 準備 | 実施 |
| 8 地域資料の活用による地域文化の継承 | 準備 | 実施 |

【評価指標】

| 評価指標 | 平成 26 年度実績 | 平成 32 年度末の目標 |
|------------------------------------|------------------|--------------------------------|
| 団体への貸出冊数及び提供したリサイクル資料点数（市内小中学校を除く） | 15,506 冊（貸出冊数のみ） | 18,000 冊 （平成 32 年度実績） |
| ビブリオバトル開催回数／参加者数 | 未実施 | 10 回／200 人 （平成 28～32 年度の累計） |
| 市民による企画展示回数 | 未実施 | 1 回 |
| デジタル化資料公開点数 | 未実施 | 検討 |

基本目標(4) しらべるを支え、つながる図書館

【多摩市立図書館 運営方針4 しらべるを支え、つながる図書館】

図書館資料は、身近なところで多くの人が便利に利用できるよう、全館で共有管理しているメリットをさらに活かします。また、より高度で専門的な調査研究に関する要望に応えるため、レファレンスサービスの充実を図るとともに、他の図書館、大学、専門機関との連携を推進します。

【現在実施している主なサービス】

レファレンス¹⁹

- ・相談コーナーの設置（本館・関戸・永山）
- ・レファレンス事例の公開
- ・インターネット検索用端末の設置
- ・オンラインデータベース²⁰の提供

他との連携

- ・京王線七市連携²¹による相互利用
- ・協力貸出による都立図書館、都内市区町村立図書館、国立国会図書館、都外図書館からの資料の借用による提供
- ・他図書館、専門機関の紹介
- ・大学図書館利用のための紹介状の発行
- ・大学司書課程実習生の受入

【課題】

- ・全館で資料を共有しているメリットを活かしつつ、本館に機能を集約し調査・研究面の強化が必要です。
- ・課題解決のための組織的なレファレンスサービスの実施や、テーマ別の資料案内の充実が必要です。

¹⁹ レファレンス：利用者が求める情報・資料を調査し、その資料の提供・紹介をするサービスです。

²⁰ オンラインデータベース：各館のインターネット検索用端末で、図書館が契約している新聞記事や法律情報等のオンラインデータベースが検索できます。データベースにより、利用できる図書館に制限があるものもあります。

²¹ 京王線七市連携：東京都市長会政策提言「広域連携の励め～多摩の魅力を高める18の連携～」に基づき平成20年4月1日に八王子、府中、調布、町田、日野、稲城、多摩の京王沿線7市の図書館で相互利用を開始しました。

取り組み9 地域課題解決の支援

| 現状 | 具体的な取り組み |
|--|---|
| 企画展示により地域課題について情報提供を行っている | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決に対応した行政資料・行政情報の収集・整備を行います。 ・多摩市の行政課題に対応した企画展示、先進事例の紹介等情報提供します。 |
| レファレンス事例をデータベース化し、図書館ホームページ上に公開 | <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス事例のデータを蓄積し業務に役立てるとともに、ホームページ上で公開します。 ・国立国会図書館のデータベースに登録を行います。 |
| 多摩市立図書館ホームページ内に「調べもの Q&A・質問集」を掲載 | <ul style="list-style-type: none"> ・多摩市立図書館ホームページの「調べもの Q&A・質問集」のページを更新します。 |
| 未実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・レファレンス資料の探し方や使い方や、オンラインデータベースの利用方法の講座を実施します。 |
| 効果 | |
| 組織的なレファレンスサービスを提供することで、市民の地域の課題・問題への探究心にこたえ、利用者の情報活用能力の向上を支援し、地域や個人の課題解決に導きます。 | |

取り組み 10 デジタル資料の提供

| 現状 | 具体的な取り組み |
|---|--|
| インターネット検索用端末、オンラインデータベースの提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービス²²に参加し、図書館内で閲覧できるようにします。 |
| 未実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域資料のデジタル化を検討します（取り組み 8 の再掲）。 |
| 未実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍サービスの導入を検討します。 |
| 効果 | |
| 入手困難な資料の閲覧を可能にし、より高度な課題解決や調査研究を可能にします。デジタル情報として保存し提供することで、紙資料の劣化を防ぎます。電子書籍サービスは図書館に来られない人や、図書館の場所・開館時間に関係なく利用することができて利便性の向上が図れます。 | |

²² [図書館向けデジタル化資料送信サービス](#): 国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料について、最寄りの公共図書館等でインターネットを通じて利用できるサービスです。

【実施時期】

| 取り組み | | 計画前期（平成 28～30 年度） | 計画後期（平成 31～32 年度） |
|------|-----------|-------------------|-------------------|
| 9 | 地域課題解決の支援 | 実施 | 実施 |
| 10 | デジタル資料の提供 | 準備 | 実施 |

【評価指標】

| 評価指標 | 平成 26 年度実績 | 平成 32 年度末の目標 |
|-----------------------------|------------|--------------|
| 多摩市立図書館ホームページ上のレファレンス事例公開件数 | 192 件 | 220 件 |

第3 読書活動を支える運営

基本目標(5) 弾力的な管理・運営

【多摩市立図書館 運営方針5 弾力的な管理・運営】

利用者サービスのより一層の向上のため、新しい技術や他の図書館及び異業種の発想や手法を積極的に学び活用することにより、弾力的かつ効果的な管理・運営に努めます。

【課題】

- ・現在の本館は暫定利用の施設で10年間という期限があり、図書館としての整備が不十分であることから、移転を含めた整備の検討が必要とされています。
- ・本館の再構築の際には、多摩市全域の図書館サービスを持続・向上させるための中心館として、これからの図書館に求められる新たなサービスを支える施設上の工夫や、市内の図書館全体のサービスを支える機能が必要です。
- ・開館時間については、職員人件費などの兼ね合いもありますが、メリハリをつけた運用などの検討が必要とされています。
- ・図書館コンピュータシステムの更新時期を迎えていることから、関連するサービス改善などの課題に優先的に取り組みます。

他にも

- ・資料費と人件費の比率、職員の構成、配置、育成
- ・ボランティア活動の促進
- ・ICTのより一層の活用による効率化
- ・図書の本失、汚損、水濡れ対策

の課題があります。

【取り組み内容】

取り組み11 本館の機能強化

| 現状 | 具体的な取り組み |
|-----------------|--|
| 現在の本館は暫定利用施設である | ・これからの図書館に求められる新たなサービスを展開し、市全体の中心館としての機能を満たすよう、本館を再構築します。 |
| 効果 | 本館を再構築することにより、市全体の図書館ネットワークを支え、これからの図書館に求められるサービスの充実に取り組みます。 |

本館は、平成 20 年に現在の場所に移転し、概ね 10 年間の暫定利用を行っています。この本館を再構築し、市内の図書館サービス全体を支えながら、レファレンスサービスなどの調べ物機能を充実するなど、メリハリのあるサービスを展開します。

超高齢社会を迎え、成熟した文化都市を目指す本市にとって、現状の図書館の課題に対応し、今求められる図書館サービスを実現していくためには、運営の中核となる本館の再構築と、図書館の仕組み全体の見直しが不可欠です。

蔵書については、新たな本館の開館に合わせて、現在の拠点館や地域館から、調べもの用資料などを中心に集約し、書庫機能の充実により分館の開架蔵書を新鮮にするなど、蔵書構成の見直しを行います。

また、職員についても、これまで取り組めなかったレファレンスや地域課題を解決するための資料提供など、新たなサービスに取り組むため、職層ごとの役割の見直し、業務委託の見直しなどを行います。

多摩市の「中央図書館」については、これまでに市の総合計画で触れられ、多摩市図書館協議会の答申でも必要なサービスなどについて提言がなされています。また、平成 19 年に市民で行った「多摩市まちづくり討議会」でも、今後の図書館に望むもの、中央図書館で必要な機能などについて、たくさんの意見をいただきました。立地についても一貫して、多摩センター地区が望ましいとされています。(巻末資料 多摩市における中央図書館検討経過 参照)

これらの経過を踏まえ、今後も市民の皆さんの意見を取り入れながら、長年の課題であった本館の再構築について、必要な機能をさらに具体的に検討していきます。

取り組み 12 図書館コンピュータシステムの見直しによるサービス向上

| 現状 | 具体的な取り組み |
|---|--|
| 書名、著者名等による資料検索ができる | ・業者作成の目録データをより活用して、資料検索等を充実し、レファレンス機能等を向上できるように、図書館コンピュータシステムを見直します。 |
| 利用者用端末、インターネットからの目録検索ができる | ・利用者が館内の端末やインターネットからの検索や予約がより便利になるよう見直します。 |
| パソコン、携帯電話からの目録検索ができる | ・スマートフォンからの検索に使いやすい画面を導入します。 |
| 図書館ホームページで情報発信実施 | ・よりタイムリーに情報発信できるように見直します。 |
| 効果 | |
| より正確かつ迅速に情報が得られるようにして、課題解決がスムーズに行われるようにします。 | |

取り組み 13 職員体制の見直し

| 現状 | 具体的な取り組み |
|--|---|
| 常勤職員、嘱託職員、非常勤一般職等により図書館運営を行っている | ・常勤職員数の見直しと専門性の向上、窓口業務、バックヤード業務等における役割を見直します。 |
| 年度ごとに研修計画を策定している | ・嘱託職員を含めた職層ごとの長期的育成を考えた計画を検討し実施します。 |
| 不定期でレファレンス研修を実施 | ・レファレンス研修を定期的に変更し、職員のレファレンス能力の向上を図るとともに、組織化によるノウハウの向上を図ります。 |
| 効果 | |
| 常勤職員数の見直しによる人件費比率の改善を行いながら、研修等による専門性の向上と職層ごとの役割の見直しをすることで、組織的な運営によるサービスの向上を図ります。 | |

取り組み 14 ボランティア活動の促進

| 現状 | 具体的な取り組み |
|---|--|
| 子ども向けおはなし会や障がい者サービス等でボランティアの協力によりサービスを提供している | ・読書活動振興のための催しなどで活躍していただくなど、より多様なボランティア活動促進に向けた検討を行います。 |
| 効果 | |
| これまでに取り組んでいない新たな分野で、ボランティア活動に参加していただくことで、市民相互による読書活動の振興を進めます。 | |

取り組み 15 事業計画の策定と点検評価

| 現状 | 具体的な取り組み |
|---|---|
| 年度ごとに計画を作成している | <ul style="list-style-type: none"> ・評価して改善につなげられるような事業計画作りを検討します。 ・事業計画及び評価について、公表に向けた検討を行います。評価については、外部評価も検討します。 |
| 効果 | |
| 図書館のよりよい運営を目指し、計画策定だけでなく、点検、評価と改善マネジメントサイクルに沿って取り組みを進めます。 | |

取り組み 16 ICT の活用

| 現状 | 具体的な取り組み |
|--|---|
| 図書館コンピュータシステムを導入している | <ul style="list-style-type: none"> ・IC タグの導入により、業務量の非常に多い貸出作業や予約図書受取などを自動化することで、業務の効率化やサービスの質の改善ができないか、費用対効果も含めて検討します。 |
| 効果 | |
| 量の多い単純作業部分を自動化することで、職員を新たなサービスの充実等に振り向け、業務の効率化とサービスの向上を図ります。 | |

取り組み 17 蔵書の適正管理

| 現状 | 具体的な取り組み |
|--------------------------------------|---|
| 図書の亡失が継続的に発生しており、また、水濡れや書き込み等が発生している | <ul style="list-style-type: none"> ・IC タグの活用などによる亡失対策を検討します。水濡れや書き込みなどの状況を市民の皆さんに知っていただくところから啓発をはじめ、利用者マナーの向上をはかり、防止につながる取り組みを検討します。 |
| 効果 | |
| 図書館の蔵書の保全により、限られた資料がより活用できるように努めます。 | |

【実施時期】

| 取り組み | | 計画前期（平成 28～30 年度） | 計画後期（平成 31～32 年度） |
|------|----------------------------|-----------------------------|-------------------|
| 11 | 本館の機能強化 | 検討 | 実施 |
| 12 | 図書館コンピュータシステムの見直しによるサービス向上 | 検討 | 実施 |
| 13 | 職員体制の見直し | 検討 | 実施 |
| 14 | ボランティア活動の促進 | 検討 | 実施 |
| 15 | 事業計画の策定と点検評価 | 事業計画の策定と公表 | 自己点検と結果の公表 |
| 16 | ICT の活用 | IC タグの導入を検討し、財源や費用対効果等の見極め | |
| 17 | 蔵書の適正管理 | 亡失や水濡れ、書込みなどの防止に向けた啓発活動等の実施 | |

【評価指標】

| 評価指標 | 平成 26 年度実績 | 平成 32 年度末の目標 |
|---------------------------------|------------|-------------------------------|
| 本館の開館時間の拡大 | 18 時まで | 20 時まで |
| 本館の開架冊数 | 11 万点 | 25 万点 |
| 国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービス利用実績 | 未実施 | 300 件 (導入から平成 32 年度末までの累計) |
| 図書館費に占める人件費の比率（唐木田図書館の窓口業務委託含む） | 約 80% | 75% |
| 事業計画の策定と自己評価の実施、公表 | 未実施 | 毎年実施 |

